マリアン・パストール・ロヘス『Gathering（集合）』

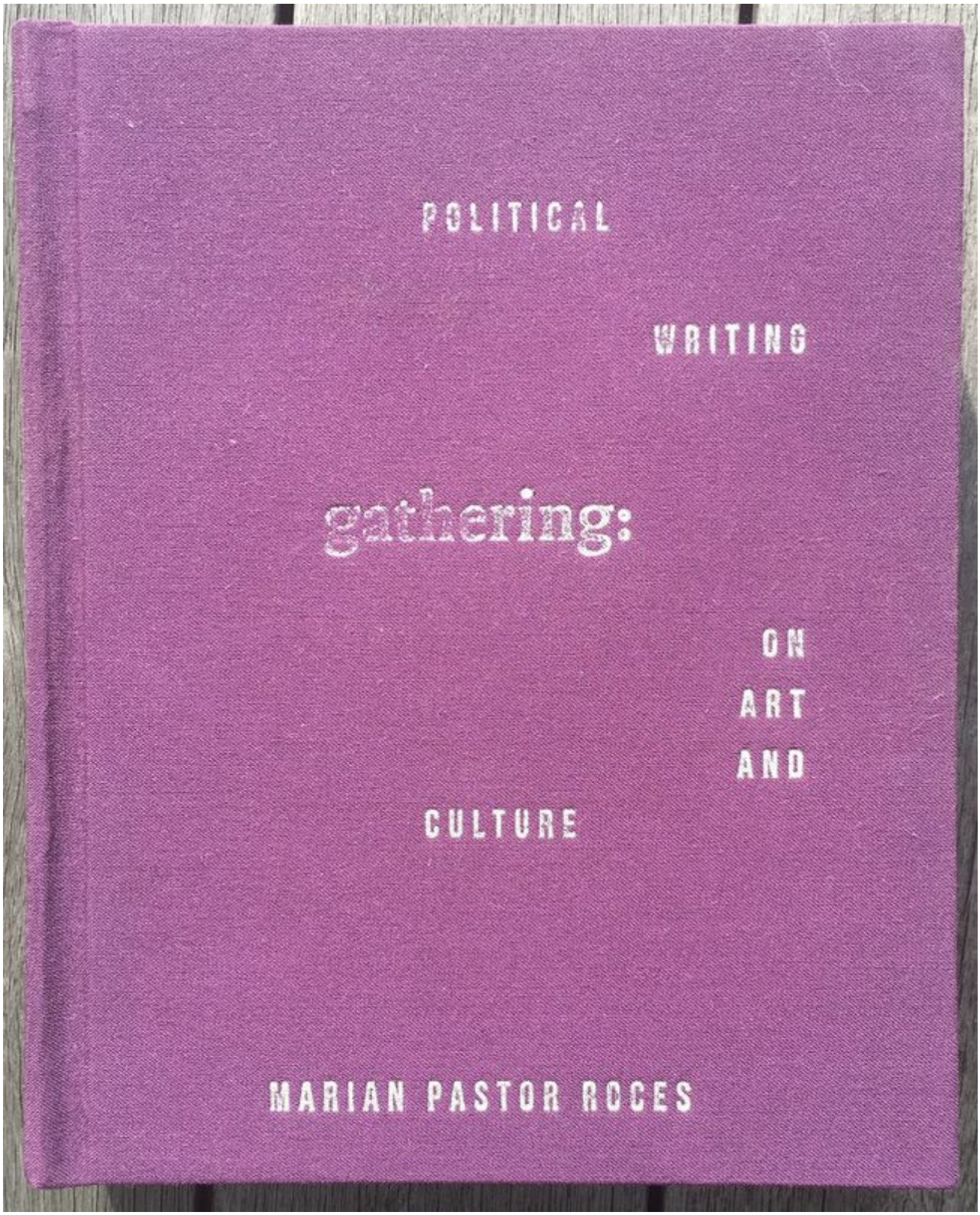
ビヴァリー・ヨン

『Gathering（集合）』は、マリアン・パストール・ロヘスが1974年から2018年までに著した芸術や文化についてのエッセイ43篇を収録した書物である。

マリアン・パストール・ロヘスの人物像は漠然としており、美術史家、キュレーター、美術館の専門家、文化論者、著名知識人などと評されている。だが、自選によるこの初めての論集で著者を批評家、芸術と文化について書く政治記者と称しているのが適切と思える。

展評、学術論文、シンポジウム記録、書籍や展覧会カタログに掲載されたエッセイなど、同書に収録された論考は、どれも軒並み、手強いテーマを扱っている。「問題を抱えた技術の必要性」「美の政治学」「国家、比較、芸術の亡霊」「ポスト・カルチャー考」など、強い権利を主張するのである。同様に、それが美術展であれ、劇場公演や会話、フィリピンにおける美術批評であれ、情報と知識で読み込んで解釈することで、芸術・文化・生活・社会・組織・権力などの規範をかみ砕いて再考し、それらを新しく構築するために必要な言葉を探しながら、常により広い文脈へと開いていく。

出版元は著者について「フィリピンで最も独創的で悪びれたところのない思想家のひとり」と評している。またある書評には「ロヘスは、一文一文を通じて、読者に革命的な心情を掻き立てようとしている」とある。臆病者には不向きな一冊。



出典:

- Marian Pastor Roces, *Gathering: Political Writing on Art and Culture Marian Pastor Roces*, editor: Sam L Marcelo, Introduction by Elena Rivera Mirano, Foreword by Rustom Bharucha（Manila: De La Salle-College of Saint Benilde, 2019）

関連リンク

- https://artreview.com/ara-winter-2019-book-gathering-political-writing-on-art-and-culture